

光徳だより

kotoku elementary school

kotoku-s@edu.city.kyoto.jp



1学期末には保護者アンケートの回答にご協力いただき、ありがとうございました。4月の学校便りでもご紹介しました通り、本校では学校教育目標のもと、3つのプロジェクトを立ち上げ、子どもたちのより良い成長のため、取組を進めています。



学校教育目標

『自ら学び 自信と誇りをもち 共に高め合う子の育成』
～かしこく やさしく 元気よく～

各チーム（プロジェクト）では、以下のような目標を設定しています。これらの目標のもと、全教職員が共通理解を図り、どの学年どの学級でも同じように子どもたちに働きかけています。

	今年度目標
かしこくチーム (知プロジェクト)	「話す子ども」を育てる授業づくり ・子どもたちの対話力向上 ・教員の授業に対する意識改革
やさしくチーム (徳プロジェクト)	心やさしく ひとを大切にする子 ～仲良く過ごすために、気持ちの伝え方を工夫する子～
元気よくチーム (体プロジェクト)	生活リズムを整え健康で 元気に学校生活を送ることができる子どもの育成



1学期の児童および保護者アンケートの結果をもとに、1学期の取組を考察しましたので、ご報告させていただきます。また、これまでの取組結果をもとに2学期の取組についても紹介しています。各プロジェクトにおいて、保護者の皆様にもご協力いただきたい点についてもまとめています。子どもたちの成長のため、学校とご家庭が一緒になって取組を進められれば幸いです。2学期も引き続き、よろしくお願いいたします。

<かしこくチーム(知プロジェクト)>

知プロジェクトでは、児童の主体性を育成するために、副題を「～進んで対話し、問題解決に向かう子の育成～」とし、主に「話す子ども」を育てる授業づくりに取り組んでいます。

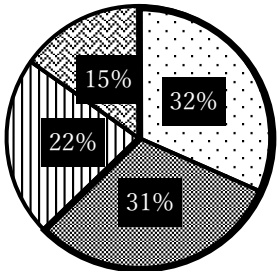
スキルタイムを活用した「対話トレーニング」では、子どもたちが話す楽しさを感じられるよう、テーマを設定しています。話す必然性を感じられるよう学年の行事や活動に合わせた内容で話したり、友だちの話をしっかり聞くことで答えられるようクイズ形式にしたりして、「話す」「聞く」態度が自然と身に着けられるような取り組みにしています。

各教科・領域の授業では、ペア・グループでの対話を設定しています。対話を通して、自分の考えを相手に伝えること・友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めたり、新たな視点に気づいたりすることを目指しています。

7月に実施した児童の学校アンケートでは、「苦手な教科や嫌いな教科のとき、自分の考えを学級みんなの前で発表することができますか」という項目で、「できる」「どちらかといえばできる」と答えた児童の割合が、63%となっていました。「好きな教科」「ペアやグループなど少人数」であれば89%の児童が自信をもって発表できるため、「苦手な教科」「みんなの前」で話すことに抵抗があることが分かりました。

R7.7月 苦手な教科や嫌いな教科の時、
自分の考えを学級みんなの前で発表することができますか。

- できる
- ▨ どちらかといえばできる
- ▤ どちらかといえばできない
- できない

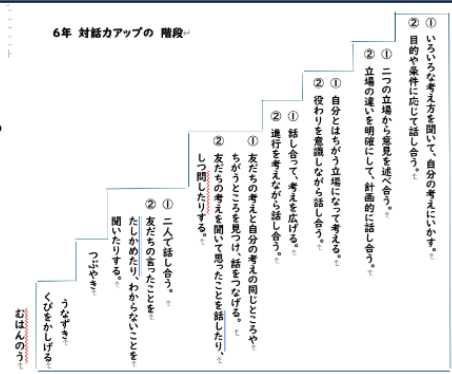


保護者アンケートでも「話す・聞く」に関わる内容について伺いました。「家庭で保護者自身は、子どもの話を聞いている」の項目では「よくできている」「大体できている」の合計が90.5%でした。しかし「子どもは、自分の考えや思いを分かりやすく話している」の項目では、「よくできている」「大体できている」の合計が65.9%となっており、保護者の方々も「話す・聞く」重要性は理解しているものの、子どもの話し方に課題を感じていらっしゃる事が分かりました。

これらの結果から「話す力」「聞く力」それぞれの力をスモールステップで学年に合わせて育成することで「対話」につながると考えました。

2学期から、今までの取組をさらに改善し、次のように進めます。

- ① スキルタイムでの対話トレーニングを継続
→ 2学期からは対話賞を指導者が決め、玄関前に掲示
毎回の対話トレーニングのめあてを明確にし、児童のやる気を引き出します。
- ② 1学期からの継続として「対話」の目標を学年ごとに設定し、全学年で指導
- ③ 「対話力アップの階段」を教室に掲示し、
学年の対話の目標に向かって力がつけられるようにします。



＜保護者の皆様へのお願い＞
○聞くときには相手の顔（目）を見ることを意識する。
○話の内容に沿って質問する。
○あいづちを打って聞く。
○話の内容に沿って質問する。
など保護者の方がよい手本となって、ご家庭の中でも会話・対話をお子たちと楽しんでいただきたいと思います。子どもたちが「話したい!」「聞いてほしい!」と思えるよう意識していただけるとありがたいです。ご協力よろしくお願いします。

文責:比嘉 一子

<やさしくチーム(徳プロジェクト)>

やさしくチームでは、「友達と仲良く過ごすために気持ちの伝え方を工夫する子」を目指す児童の姿に設定し取組を進めています。

目指す姿を設定した理由として、毎日の生活の中での児童の様子を見てみると、学校の友達の気持ちを考えることはできる子が多いが、それをふまえてさらに自分の気持ちを伝えていくということに抵抗を感じている子が多いように感じていました。そこから、言葉遣いや言葉選び、自分の気持ちの伝え方が工夫できる児童を目指し、今年度はアサーティブコミュニケーションという手法を中心とした取組を始めました。

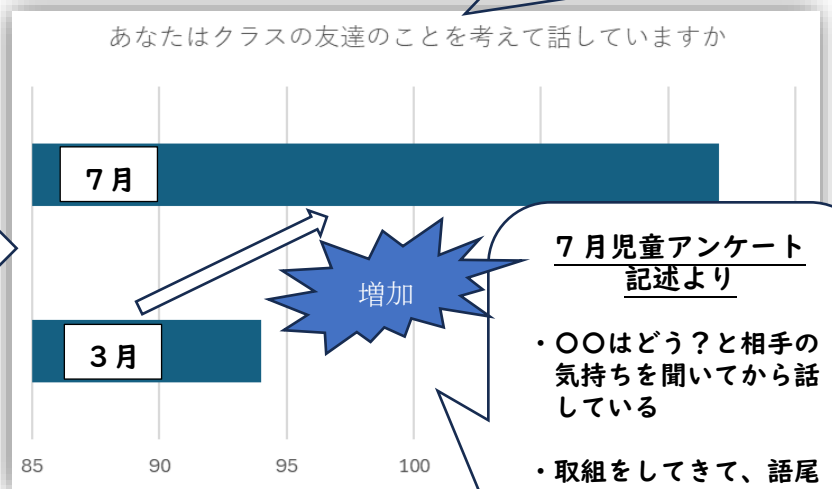
Ⅰ学期末にとったアンケートの結果、Ⅰ学期の取組の成果がしっかりと見られました。

<具体的な取組>

- ・今月のSCENE・児童に意識させたい学校生活の場面を決めて、言葉選びや言葉遣いを意識できるよう毎月の児童集会で全校児童へ発信。
- ・アンケート結果を各クラスに掲示して自分たちの様子をグラフ化して教室掲示。
- ・たてわり対話・たてわりグループでアサーティブコミュニケーション要素の入ったテーマから対話をする。

<児童アンケート結果の変化>

“クラスの友だちのことを考えて話していますか”という項目で、「できている」「だいたいできている」と答えた児童が から と大幅に増加！



7月児童アンケート 記述より

- ・〇〇はどう？と相手の気持ちを聞いてから話している
- ・取組をしてきて、語尾を？にして話すことができるようになった

取組を進めていく中で、相手の気持ちを考えながら自分の気持ちを伝えることができるようになったと答えた児童が増えました。少しずつ意識をして友達と関わろうとする児童が増えてきています。

また、保護者アンケートの結果からも児童の変化が分かります。

保護者アンケートより

児童のご家庭での姿について回答していただきました。「できる」「だいたいできている」との回答が多く見られました。

“相手に自分の気持ちを伝えることができる”・・・86.5%

“相手の気持ちを考えて話すことができている”・・・74.1%

この結果より、お家でも少しずつ意識して取り組んでもらっている様子が伝わります。

2学期も引き続き今月のSCENEを中心に、学校生活で起こりうる様々な場面を例に、「こんな時どんな風に自分の気持ちを伝えることができるかな？」と子どもたち自身で考えて取り組めるようにしていきます。

お家でも子どもたちと学校の出来事を話するときなど、「どんな風に伝えたら良かった？」など聞き返してみる機会をぜひ、設けてみてください。ご協力よろしくお願いします。

文責：金田 織絵

<元気よくチーム(体プロジェクト)>

元気よくチームでは、姿勢・運動・咀嚼を通して児童の生活リズムを整えていきたいと考えています。この 3 つの取組は幸せホルモン（セロトニン）の分泌を促す効果があるといわれています。幸せホルモンが分泌されることによって良い睡眠をとることができたり寝起きが良くなったり、心がリラックスするなどの効果があります。

そこで今年度は、その効果に着目し学習時の姿勢保持（立腰）、朝のウォーキングダンス（運動）、よく噛んで給食を食べる（咀嚼）の 3 つの取組を進めています。7 月の児童アンケートではこのような結果となりました。

姿勢よく学習している
どちらかといえばしていると
答えた児童 78%

休み時間や放課後に
体を動かして遊んでいる
どちらかといえば遊んでいる
答えた児童 75%

給食時によく噛んでいる
どちらかといえば噛んでいると
答えた児童 95%

3つの項目どれも 75%を超える結果となりました。特に、咀嚼では 95%の児童が「よく噛んでいる」「どちらかといえば噛んでいる」と答えています。しかし、保護者アンケートの結果を見ると「よく出来ている」「大体出来ている」の回答は 66%で児童と保護者での回答には約 30%のひらきがあるという結果でした。そこに児童のできていると大人のできているの感覚には大きな違いがあることが分かりました。この結果は、咀嚼だけでなく、姿勢や運動でも言えると考えられます。

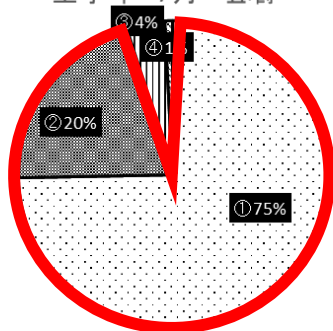
アンケート結果から多くの児童は、姿勢・運動・咀嚼を意識していると答えています。しかし、学習時の姿勢が足を床につけ、腰を立て背筋が伸びた良い姿勢を保持できているかという点はまだ十分ではないと感じます。45 分その姿勢を保持し続けることは大変なことです。短い時間でもよいので良い姿勢を保持し、姿勢が崩れた時には自分で気づき、姿勢を整えられるようになってほしいと考えています。

また、運動では、昨年度元気よくチームで取り組んだ成果が今も継続できています。暑い日が続いていますがそれでも外に出て元気よく遊んでいる児童の姿にこちらも元気をもらっています。また、体育館開放では普段体を動かして遊ぶことが少ない児童も積極的に遊んでいる様子があります。今後も継続して児童の様子を見ていきたいと思います。

姿勢・運動・咀嚼すべてにおいて、学校での取組が習慣化し、どこでもよりよく行動できることが大切だと考えています。

7月 全校児童アンケート結果

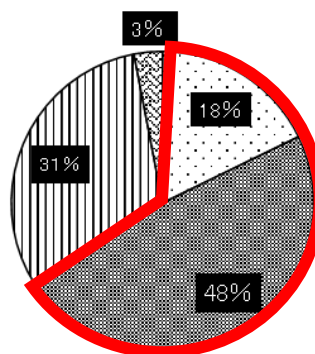
全学年 7月 咀嚼



子どもと大人の感覚
には、約 30%の
違い

7月 保護者アンケート結果

子どもは、意識してよく噛んで食べようとしている。



□ よく出来ている
■ 大体出来ている
▨ あまり出来ていない
⊞ 出来ていない

元気よくチームの取組を通して姿勢・運動・咀嚼の習慣が定着することで、普段の生活リズムの改善につながると考えています。

ご家庭でも良い姿勢をすることや咀嚼をしっかりとして食事をとることができるようにお声かけをお願いします。

今後も教職員一丸となり児童のより良い成長ができるように進めていきたいと思います。

○さらに児童の幸せホルモンの分泌を促していくために

1学期に引き続き 2 学期では次のことを行っています。

- ・姿勢保持のために保健委員会と連携した取組
- ・体育館開放（昼休み）
- ・咀嚼の大切さの指導継続
- ・給食日より、保健日よりでの姿勢や咀嚼についてのコラム

文責：中本 優